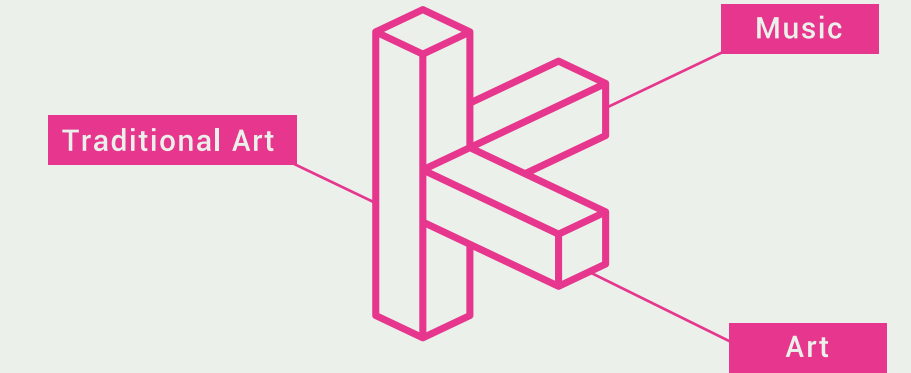


ABOUT KCIC

KCICでできること

「わくわくすることに出会いたい」「アートってなに?」と、好奇心旺盛な人とつながりながら、地域の“楽しい”を見つけていく—、そんな活動をするための拠点ががこしま文化情報センター（KCIC）です。美術、音楽、伝統芸能の3つのジャンルを軸にした企画を、所内やまちなかで広く展開しています。



現代アートの情報がほしい！

各種メディア

Media

Space

[1] KCIC LIBRARY

KCICがセレクトした、現代美術、デザイン、建築など文化系の書籍や展覧会カタログを並べたクリエイティブな本棚。自由に閲覧できます。

[2] KCIC ART NEWS

各地の美術館・アートのスペースの展覧会、アートイベントを中心にしたフライヤーやフリーペーパーを設置。自由にお持ち帰りいただけます。

[3] BOX-ROOM Gallery

ボックスサイズのギャラリースペース。KCICがおすすめする鹿児島内外の様々なジャンルのアーティストの作品を常設展示しています。

1

2

3

アートの活きた知識・実践を身につけたい！

KCICアートマネジメントラボ

KCIC Art Management Lab

アートの力で街を面白くしたい人たちに、かこしま文化情報センター（KCIC）が、2015年から始めた企画。今年度は9人の講師を迎え、文化イベントの在り方を新しいフォーマットで考え、作るレクチャーとワークショップを行いました。アートイベントの経験は不問。興味のある方が自由に参加頂ける“学び”と“実践”の場です。

1

2

アートをやってみたい！

KCICワークショップ

KCIC Workshop

アーティストと地域の人々が共に制作を行う「制作プログラム」、地域の魅力を発見する「リサーチプログラム」、多彩なジャンルのゲスト講師による「ゲストアーティストプログラム」、KCIC 所外ワークショップを届ける「出張プログラム」を実施しています。

1

2

KCICサポーターズ

KCIC Supporters

KCICが、所内や街中でワークショップやイベントをする際に、運営のお手伝いをしていただくボランティア組織。現在、幅広い世代の方に登録いただいており、アーティストやスタッフとともにアート企画を楽しく実施しています。

1

2

Web

KCICウェブサイト

展覧会やイベントの情報はもちろん、市内各地の伝統芸能の団体と行事を網羅した地域独自のコンテンツを随時更新中！

KCICメールマガジン

月に1回アートや音楽、伝統芸能に関する最新情報「KCICメルマガ」を定期的に発信しています。下記ページよりご登録下さい。

www.kcic.jp/subscribe_mail_magazine

www.kcic.jp

1

2

Tourism

かこしまアートナビ

鹿児島へやってくる観光客等に向け、県内のアート&カルチャースポットを紹介するものです。KCICウェブサイトより、Web版、電子書籍版、PDF版で発信しています。

アート好きの旅人たちへ、鹿児島のアートスポット紹介

1

2

Books

KCIC BOOKS

情報の多様な発信方法の1つとして、KCICが取り組む電子書籍。"アーティストとの共同制作"、"地域×アートのかけ合わせ"、"年間の活動報告"をテーマに制作、発行しています。2015年度の新刊の情報は裏面をご覧ください。

www.kcic.jp/BOOKS

Publication

KCIC Arts Crossing

かこしま文化情報センターが年2回発行するフリーペーパー。各地で活躍するデザイナーやアーティストのアートワークと、KCICの活動を紹介します。バックナンバーはKCICで入手可能なものもあります。ぜひご利用ください。

1

2

KCIC book mark

紙

魔法の世紀

著者／落合 剛一

発行／株式会社 PLANETS／第二次惑星開発委員会

地球マテリアルブックーデザイン×科学のダイアログ

著者／発行／日本科学未来館

www.miraikan.jst.go.jp/online/materialbook/

20世紀が「映像の世紀」ならば、21世紀は「魔法の世紀」。そう語る“現代の魔法使い”落合剛一（研究者／メディアアーティスト）初の著書。今や生活に溶け込み、我々にとって欠かせない存在になっている「魔法の箱」コンピュータがつくりだす社会は、立体物をコピーする3Dプリンタ技術など、ディスプレイの内側だけにどまらず、イメージの中で起こっていた出来事を物質の世界に踏み出させるまでに至っている。本書は現在に至るまでのコンピューターヒストリーやまるでファンタジーのような落合自身の作品（超音波で物体を浮遊させる装置など）を読み解きながら、来る「魔法の世紀」を模索する。「社会の中にファンタジーを実装する」そんな近い未来を見せてくれる一冊だ。（I）

2010年に日本科学未来館が行った「デザイン×科学 地球マテリアル会議」のなかで3人の科学者と11組のデザイナーが行った対話をもとに、まとめられたマテリアルブックである。本書プロローグのタイトル「モノづくりを地球スケールの『大きな時間』で考えてみよう」という視点や科学者とデザイナーという組み合わせから生まれる新たな視点から、モノづくりに新たな方向性を与える一冊ではないだろうか。「つくるモノの元素を知る」「壊すことを計算して設計する」「消費ではなく循環」など本書には環境・循環型社会に求められるモノづくりのヒントが多く散りばめられている。環境を意識するという意味ではモノづくりに関わる人だけでなく、モノを使う消費者にも読んでほしい。（II）

Local + Art

湧水町とアート

「様々な造形表現と地域の事例」

鹿児島県霧島アートの森 学芸員 植松 篤

筆者の勤務する鹿児島県霧島アートの森は、霧島連山の一角、栗野岳の中腹に位置しており、自治体としては県北の湧水町にある。当館とみやまコンセルは霧島国際芸術の森構想のもと鹿児島県により設置され、それぞれ地域の美術と音楽の拠点として活動している。今回、美術館のある湧水町におけるアートの取り組みを紹介したい。

1

2

霧島市にある霧島温泉郷や霧島神社などの有名な観光地を有し、安定した人口を抱えているが、湧水町は温泉や観光スポットはあるものの、都市部からのアクセスは容易ではなく、人口は一万人を割り込みそうな勢いで減少しているという厳しい状況にある。

もともと、町自体は魅力があり、自治体も地域文化の振興を図っている。文化に関して言えば、湧水町は「人と自然が織りなす芸術のまち」を目指し、これまで施策を行ってきた。例えば、毎年「高原フェスタ 彫刻造形展」と題し地域の素材を用いた造形作品を募集し、地元小学校や家具店、地域の団体などが出品している。参加団体は、樹木や草木の特徴を活かし、工夫を凝らした作品を制作している。こうした素材の見立てによる造形は美術館に並ぶこととはないかもしれないが、菊人形や各地の“つくりもん”など、日本の造形的な伝統とも通底するものがあるのではないだろうか。制作された作品はその後、町内各地に展示されることになる。しばらくの間、霧島アートの森に登る道中に牛を模した作品があり、その不思議なリアリティに筆者は造形作品と知りながら何度かびくりしたものだ。また、同時期に開催されているチェーンソーアートの大会は、本年度は国民文化祭もあり、「自然の恵みと芸術の共演」をサブテーマに全国大会を開催した。チェーンソーアートは短時間のうちにチェーンソーで作品を作り上げるもので、競技的な側面を有している。今回は通常よりも大きな規模で実施され、述べ八千人程の来場者があったようだ。町内には、その他にも平成18年度より町が「芸術があるまちづくり事業」により収集した彫刻作品が点在しており、公共施設や物産館などに展示されている。平成25年には栗野駅周辺の道路等の整備が完了し、新たにモニュメントとなる彫刻も設置された。霧島アートの森は、本年度は梶井氏を招聘し、「梶井の霧島アート学校」のタイトルでねぶたオブジェの講習会を行った。青森のそれと違い、着色はせず、和紙の白さを残したものである。梶井や京都造形芸術大学の指導スタッフによるねぶたオブジェの制作指導により、参加団体の作品制作が進められた。完成した作品は栗野駅に隣接する湧き水の池のほとりで行われる「丸池感謝の夕べ」や、鹿児島市で開催されている「音とあかりの散歩道」で展示された。こうした芸術関係者の滞在には、美術館の近くにあるフィールドアート栗野町ログ・キャンプ村が廉価で宿泊を提供しており、レジデンスの施設のない当館の事業にとって重要な組織である。湧水町では、こうした官民を超えた協力体制を築くことができる。筆者は普段いゆる現代美術という狭い範囲を生業としている。しかし、これらの事例から、それ以外にも様々な造形的活動が

ARTS CROSSING VOL.06

かこしま文化情報センター [Arts Crossing 06]

企画制作・編集：かこしま文化情報センター（KCIC）アートプロジェクト（OIGUNTS）

発行：文化政策推進課（OIGUNTS）

892-0815 鹿児島県鹿児島市栗野町1-2 鹿児島市役所みなと大通り別館1F

かこしま文化情報センター（KCIC）内

TEL 099-242-8121 Information@kcic.jp http://www.kcic.jp

©文化政策推進課の協力（くり実行委員会）

2016年3月18日発行

KCIC

Kagoshima Cultural Information Center

Report

Annual

Report

03

ARTS CROSSING VOL.06



03

企画制作
+
協力



13
KCIC WORKSHOP 連携プログラム
「巣をつくるワークショップ」
2015年6月20日(土) 会場：かこしま文化情報センター(KCIC)
2015年6月15日～27日までKCICスタジオBで開催された鹿児島大学建築学科、第一工業大学建築デザイン学科の共同展示「桜島の住宅／2つの世帯が共に暮らす家」の関連ワークショップとして実施。住宅は人間の棲家であり、「巣」はその原型であるというコンセプトのもと、身近な素材を使用していきものの巣を各自制作し展示をした。

16
KCIC WORKSHOP 「影でえかくお話」
撮影期間：2015年9月15日(火)～10月10日(土)
会場：かこしま文化情報センター(KCIC)
上映日時：2015年10月17日(土) 17時～20時30分
映像上映：DINIZカフェ
鹿児島市のイベント「音とあかりの散歩道2015」にて展示される「あかり」作品として、映像作品を市民参加型で制作。「あかり」とともに「影」に着目し、KCICに来所した人々のシルエットを撮影し、それらを繋いで一本のストーリーのある作品を制作。イベント当日、エリア内の石づつりのカフェの外壁へ投影した。



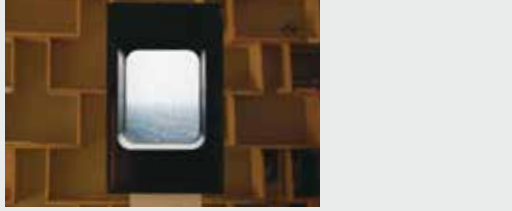
Photo: 中村 一平 (リアライズ)

14 **つい de サロン**
vol.1 柴田 昌平(「千年の一滴」映画監督)
ゲスト：今給黎 秀作(観劇作り職人)
聞き手：沢畑 享(朝田食土家元、愛林館 館長)
2015年4月25日(土)
場所：ガーデンズシネマ(マルヤガーデンズ7F)
協力：一般社団法人鹿児島コミュニティネマ

vol.2 中川 たけま
(プランニング・ディレクター/ブルームーデンデザイン事務所)
聞き手：原田 真紀(キュレーター/ママとこどものアートじかん)
2016年2月27日(土) 場所：レトロフトMuseo
協力：レトロフトMuseo/ママとこどものアートじかん



15 **下道基行ワークショップ+展示**
「あいだの島のはなし」
文化庁メディア芸術祭鹿児島県「境界のあいだ」参加作品
2015年10月31日(日)～11月14日(土)
会場：かこしま文化情報センター(KCIC)
主催：文化庁 共催：第30回国民文化祭鹿児島県実行委員会



06 KCIC アニュアルレポート 03

■ 展示：2016年4月1日(金)～ 10:00～18:00(日・水曜休所)
会場：かこしま文化情報センター(KCIC)、市民アートギャラリー
■ 電子書籍版：2016年3月中旬発刊予定
KCICの活動記録を、コストをかせずに興味のある方に対して遠方でもアクセスできるよう広く届ける電子書籍、アート活動を市民に届けるための入り口としてのフリーペーパー、そして、場を持つセンターの強みとして、これまでに制作したものを展示し、公開。

07 KCIC アートマネジメントラボ

■ 講座：2015年6月20日(土)～12月5日(土) 全8講座
会場：かこしま文化情報センター(KCIC)
■ 電子書籍：「KCIC アートマネジメントラボ」
(2016年3月中旬発刊予定)
KCICの拡張したスペースを利用して、新しいアートマネジメントの形を模索する座学(レクチャー)と実践(ワークショップ)のシリーズ。9人の講師をお招きし、各地で独自の活動を展開するアートマネジメント、発信(告知)活動、教育普及など、いまの社会に必要なマネジメント(企画・運営)の在り方を、参加者と一緒に模索した。



講師： 山出 淳也 小山 淳子 原田 真紀
小田 久美子 兼松 佳宏 大澤 寅雄
あいだ だいや 橋本 誠 藤 浩志

09 かこしまのうわさプロジェクト

アーティスト 山本 耕一郎
2014年11月(うわさラボ開所)～
2015年7月5日(日)(まちなか展開終了日)
■ 会場：天文館11通り会、アミューブラ鹿児島、マルヤ
ガーデンズ、山形屋、takapla、カリノ、市電、KCIC
■ 電子書籍「かこしまのうわさプロジェクト」
(2016年2月発刊)

青森を拠点に活動するアーティスト・山本耕一郎氏が国内で取り組む「うわさプロジェクト」を実施。まちなかに暮らす人の自慢話などを吹き出しの形にしたバッジやおみくじなどのメディアを作成し、展開。また、天文館の11通り会と百貨店3店舗、プロサッカーチーム「鹿児島ユナイテッドFC」、プロバスケットチーム「レノヴァ鹿児島」とも協働。また、「うわさ隊」というボランティア組織を結成し、KCIC内の「うわさラボ」を拠点に、まちなかへと活動していった。

04 あいだだいや「フリットモ」プロジェクト

KCIC BOOKS アーティストシリーズ 2015
2015年9月～2016年3月
■ 展示：「触れるフリットモ展覧会～灰／雪まみれの往復書簡～キュレーション あいだだいや」
日程：2016年2月13日(土)～3月12日(土) 会場：かこしま文化情報センター(KCIC)
■ 電子書籍：「フリットモ」(発行：2016年2月13日(土))
トークイベント：「アーティストあいだだいや『フリットモ』出版記念トークイベント「灰と雪の生活」」
日程：2016年2月13日(土) 会場：かこしま文化情報センター(KCIC)
ゲスト/国土交通省九州整備局大隅河川国道事務所桜島砂防出張所長 豊増真也氏



各ジャンルのアーティストとKCICが電子書籍の制作に取り組む「KCIC BOOKS アーティストシリーズ」。今年度は、「価値」や「メディア/コミュニケーション」という視点から多様なメディアを使って活動を行うアーティスト・あいだだいや氏を迎え、「火山灰」の鹿児島と「雪」の青森をテーマに、その地に住む人々とともに 往復書簡をネット上(Facebook非公開ページ)で行った。関連して展示とトークイベントを開催した。

05 手塚夏子「わたしたちの唄、わたしたちの踊りをつくる」プロジェクト 2015



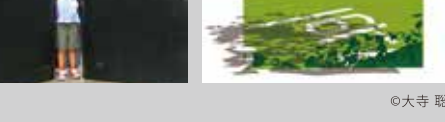
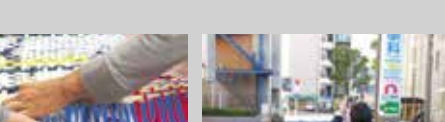
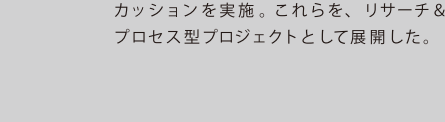
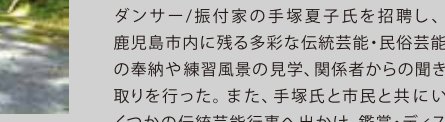
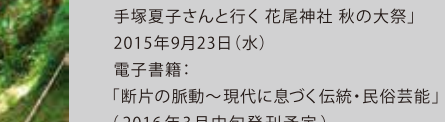
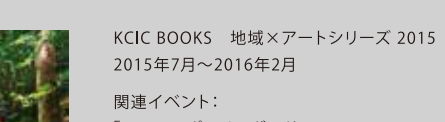
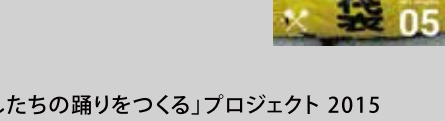
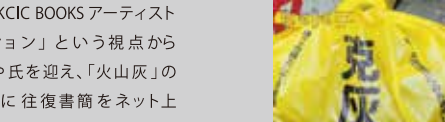
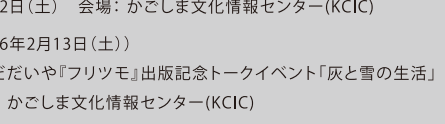
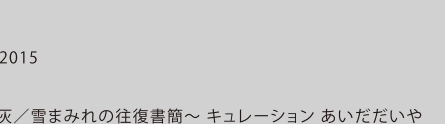
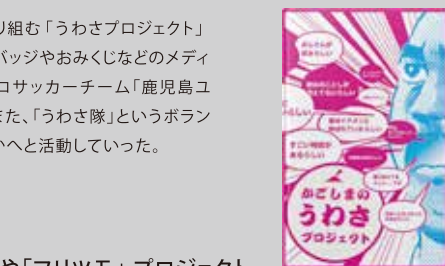
08 KCIC WORKSHOP

■ 制作プログラム
「みんなの古着でベンチカバーをつくるワークショップ」
2015年4月2日(木)～6月30日(火)
会場：かこしま文化情報センター(KCIC)
講師：平川 渚 (KCICスタッフ/アーティスト)

■ リサーチプログラム
「わたしたちの地域辞典をつくるワークショップ」
みなと大通り公園周辺編
Vol.1 2015年11月14日(土)
Vol.2 2015年12月19日(土)
会場：かこしま文化情報センター(KCIC)、
みなと大通り公園周辺
講師：平川 渚 (KCICスタッフ/アーティスト)

■ ゲストアーティストプログラム
vol.4「街のかたちをつくる/ズルダンスワークショップ」
2015年8月21日(金)
講師：イフクキョウコ(ダンサー・振付家)
会場：かこしま文化情報センター(KCIC)
みなと大通り公園周辺

vol.5「日常の風景をイラストにしよう」
2016年3月5日(土)
講師：大寺 聡(イラストレーター)
会場：市民アートギャラリー



Direction & Organization



12 KCIC WORKSHOP 出張プログラム

「わたしたちの地域辞典をつくるワークショップ」
Vol.3 松元 耀、Vol.4 桜島 耀
Vol.3 松元 耀
日程：2016年1月30日(土)
エリア：松元・石谷地区
会場：石谷校区公民館
協力：NPO法人PandA

今年度のリサーチプログラムの出張版として、江戸時代の史跡が随所に残る緑豊かな松元・石谷地区で、小学生を対象に開催。作成した地域辞典は、これまで制作された「みなと大通り公園周辺編」、「桜島編」とともに市民アートギャラリー内で展示。



Vol.4 桜島 耀
日程：2016年2月6日(土)
エリア：桜島・赤水地域
会場：赤水公民館(赤水港港避難倉)
協力：NPO法人桜島ミュージアム
溶岩が随所に見られ、路地も多い桜島の赤水地区で開催。ワークショップの最後に、実際に歩いたエリアに対するジオストーリー解説を、NPO法人桜島ミュージアムの久木田智美さんが行った。作成した地域辞典は、これまで制作された「みなと大通り公園周辺編」、「松元編」とともに展示。



10 スポーツタイムマシン 鹿児島

アーティスト 大飼 博士、安藤 僚子
文化庁 メディア芸術祭鹿児島県展
「境界のあいだ」参加作品

2015年10月24日(土)～11月15日(日)
場所：アミューブラ鹿児島 B1階から3階
主催：文化庁

「文化庁 メディア芸術祭」の巡回展として第17回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門優秀作品の企画を実施。壁に投影される昔の記録と「かけこ」ができるシステムに、子どもたちを中心に多くの参加者で賑わった。プロサッカーチーム「鹿児島ユナイテッドFC」、プロバスケットチーム「レノヴァ鹿児島」とチアダンスチーム「レディラック」も参加するなど、地域の人々との交流を生んだ。

11 鹿児島大学建築学科・第一工業大学建築デザイン科

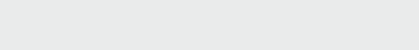
「桜島の住宅／2つの世帯が共に暮らす家」
作品展示
2015年6月15日(月)～6月27日(土)
会場：かこしま文化情報センター(KCIC)

鹿児島大学と第一工業大学の2大学の建築系学科が合同で取り組んだ住宅設計課題「2つの世帯が共に暮らす家」の成果を展示。学生たちが考える新しい暮らしの提案を模型と図面を通して市民に向けて紹介した。

12 鹿児島大学建築学科・第一工業大学建築デザイン科

「桜島の住宅／2つの世帯が共に暮らす家」
作品展示
2015年6月15日(月)～6月27日(土)
会場：かこしま文化情報センター(KCIC)

鹿児島大学と第一工業大学の2大学の建築系学科が合同で取り組んだ住宅設計課題「2つの世帯が共に暮らす家」の成果を展示。学生たちが考える新しい暮らしの提案を模型と図面を通して市民に向けて紹介した。



KCIC アニュアルレポート 03

1～28の番号は、電子書籍「KCIC アニュアルレポート03」のプロジェクト番号と対応しています。

※ 詳細な年次報告については、電子書籍「KCIC アニュアルレポート03」(3月下旬発刊)をご参照下さい。
www.kcic.jp/books/annual-report-2015

Information

情報発信



17-23 Information

■ KCIC Arts Crossing
(フリーペーパー 年2回発行)
「KCIC Arts Crossing vol.5」
「KCIC Arts Crossing vol.6 アニュアルレポート03」
■ KCIC ウェブサイト(随時更新)
■ KCIC BOOKS (電子書籍)
・ KCIC BOOKS アーティストシリーズ 2015「フリットモ」
・ KCIC BOOKS 地域×アートシリーズ 2015
「断片の脈動～現代に息づく伝統・民俗芸能」
・ KCIC BOOKS アニュアルシリーズ 2015
・ 「かこしまのうわさプロジェクトドキュメント 2015」
・ 「KCIC アートマネジメントラボ」
■ KCIC メールマガジン (月1回発信)
■ KCIC LIBRARY (美術図書閲覧スペース運営)
■ KCIC ART NEWS
(ライナー、フリーペーパー設置スペース運営)
■ BOX-ROOM Gallery (作品紹介スペース)

And More



24 音とあかりの散歩道 2015

2015年10月17日(土)
会場：鹿児島市立美術館前庭、かこしま近代文学館・メルヘン館中庭、照国公園(県立博物館考古資料館前)、探勝園
2013年より、市立美術館を中心にした文化ゾーンを舞台に行う音楽と光の作品のイベント。地元の演奏家や伝統芸能保存会の約24団体によるコンサートと建築科や美術科の学生ら8団体によるあかりの作品を発表し、地域で文化活動を行う市民の支援やネットワークの構築を行った。

25 2015ふるさとコンサートin桜島

2015年10月24日(土)
会場：鹿児島市立桜峰小学校体育館
主催：文化薫る地域の魅力づくり実行委員会、鹿児島市、鹿児島市教育委員会
2013年度より地域文化の振興につなげようとして行っている音楽と伝統芸能のイベントを、今年度は桜島で開催。桜島地域に古くから伝わる伝統芸能の他、地元の小中学校による音楽の演奏や下駄タップなどが披露され、他には桜島火の島太鼓、松本圭佳 JAZZ QUARTET等が出演。



27 伝統芸能ネットワーク会議

2015年5月30日(土)
会場：ホテル満寿
鹿児島市内で活動を行っている地域伝統芸能の保存団体同士のつながりをつくるため、2013年度より実施、伝統芸能保存団体・功労者への感謝状贈呈や、団体の意見交換等を行った。



28 伝統芸能伝承サマーキャンプ

2015年8月1日(土)・2日(日)1泊2日
会場：県立青少年研修センター、名勝仙巖園・尚古集成館

郷土芸能保存団体間の交流、親睦を図り、伝統芸能の伝承と演技レベルの向上につなげるため、地域伝統芸能の継承者である児童や指導者等を主な対象として、地域伝統芸能に関する研修・交流の場としてサマーキャンプを実施した。伝統芸能についての座学と基本動作の研修を行うとともにふるさとの歴史にふれるため、二日目は仙巖園の見学を行った。

